

愛媛県立川之江高等学校 令和7年度 シラバス

教 科	地理歴史	科 目	地理総合
単 位 数	2 単位	学年・類型	第1 学年・全クラス
使用教科書	新地理総合（帝国書院）、新詳高等地図（帝国書院）		
補助教材等	なし		

1 学習目標

- 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、地理的な見方・考え方など地理的技能を身に付けます。
- 地理にかかわる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察し、地理的な課題の解決に向けて構想し効果的に説明する力を身に付けます。
- 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追及、解決しようとする態度を身に付けます。

2 学習方法

- 日本史・世界史との関連を意識しながら地理を学びましょう。
- 因果関係や国際関係など多角的な視点でとらえながら地理的事象に触れ、学習を進めましょう。
- 様々な資料やグラフ、図を読み解きながら、地理を深く探究しましょう。
- 身近なものや地理とのつながりにも目を向けましょう。世界を旅する感覚で地理の学習を進めましょう。

3 学習評価

(1) 評価の観点の趣旨と方法

観点	評価	評 価 の 観 点 の 趣 旨	評 価 の 方 法
知識・技能		地図や地理情報システムを活用し、世界の生活文化の多様性や防災、地域や地球的課題への取組などを理解している。 諸資料や地理に関するさまざまな情報を活用し、地理的な見方、考え方など地理的技能を身に付けている。	○定期考査 ○小テスト ○提出物
思考・判断・表現		探究の問いに対し、地理的な見方、考え方を働かせ、考察したことを表現できる。 諸地域に関する課題や地球的課題に対し、多面的・多角的に考察し、考察したことを効果的に表現できる。	○定期考査 ○授業中の探究活動 ○振り返りシート
主体的に学習に取り組む態度		世界の諸地域の多様な生活文化を尊重する大切さを自覚し、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。 自ら学習計画を立て、主体的に学んでいる。	○授業中の探究活動 ○振り返りシート ○提出物

(2) 各学期及び学年末の評価

各学期の評価は定期考査(期末考査・学年末考査)、成績及び課題の提出状況、さらに授業中の態度や発表内容等を総合して行います。学年末の評価は、各学期の評価を平均することにより行います。

4 学習のポイント

- 授業内容を理解するために、教科書を読むなど予習をしましょう。また、学習課題を立て、主体的に学びましょう。
- 活発な発言や質問、議論を通して、積極的に授業に参加しましょう。
- 教科書の本文の内容を写真資料やグラフ、統計資料などを通して理解していくことが大切です。暗記しようと思わず、例えば、地震が発生するのはなぜなのか、ある地域で特定の農作物の栽培が盛んであるのはなぜなのかといった問いを立て、それを論理的に解いていけるようにしましょう。
- 单元ごとにポートフォリオを作成し、学習内容を振り返りましょう。その際、自分の言葉で学習内容を表現することで、内容の定着につながります。

5 学習計画（予定）

月	学習項目	学習のねらい・学習活動
4	「地理総合」の学習について 第1部 地図でとらえる現代世界	・「地理総合」の学習について、その意義や学習内容の概要、評価の方法などについて理解できるようにします。 ・地軸の傾きや自転・公転による影響を理解できるようにします。また、地球上

5	第1章 地図と地理情報システム	には常に昼と夜が存在することを理解し、時差の影響やそれに対する工夫を考えます。 ・地図にはさまざまな種類が存在することを理解し、地図の種類に応じた用途の多様性を考えます。
	1節 地球上の位置と時差	
	2節 地図の役割と種類	
	第2部 国際理解と国際協力	
	第1章 生活文化の多様性と国際理解	
6	1節 世界の地形と人々の生活	・地球上の多様な地形をふまえ、人々の生活とどのように関わり合っているのかを理解できるようにします。 ・気候要素と人々の生活がどのように関わり合っているかを理解できるようにします。また、世界各地ではどのような生活が営まれているか、諸資料を活用しまとめます。 ・日本各地の地形や気候の特徴が河川や海岸にどのような影響を与えているのかを理解できるようにします。 ・震源の位置や土地の条件によって、引き起こされる被害に違いがあることを理解できるようにします。 ・日本列島において火山活動が活発な理由や火山活動にともなう災害や恩恵を説明できるようにします。 ・季節によって発生しやすい気象災害の要因と影響について説明できるようにします。 ・大規模災害への対応について、自助・共助・公助の視点からどのようなことが行われているか理解できるようにします。 ・ハザードマップを利用し、身近な地域の自然災害の可能性を読み取れるようにします。また、これまでの災害の教訓を生かし、どのような対策を講じていくべきか、考えます。 ・世界各地ではどのような生活が営まれているか、諸資料を活用しまとめます。 ・世界には、日本とは異なる言語を話す民族や信仰されている宗教が存在することを理解できるようにします。 ・世界各地の多様な環境のもとで育まれ変化してきた歴史的背景を理解できるようにし、人々の生活に与えてきた影響を考えます。 ・自然環境の面や社会環境の面から、食生活や農業形態の地域差について説明できるようにします。 ・国家の領域や国家の定義をふまえ、日本の位置や領域の特徴を理解できるようにします。 ・グローバル化に伴う貿易や交通、通信、観光など世界を結び付ける要素の特徴を理解できるようにし、それらの課題をまとめます。
	2節 世界の気候と人々の生活	
	第3部 持続可能な地域づくりと私たち	
	第1章 自然環境と防災	
	1節 日本の自然環境	
7	2節 地震・津波と防災	
	3節 火山災害と防災	
	4節 気象災害と防災	
	5節 自然災害への備え	
	第2部 国際理解と国際協力	
9	第1章 生活文化の多様性と国際理解	
	2節 世界の気候と人々の生活	
	3節 世界の言語・宗教と人々の生活	
	4節 歴史的背景と人々の生活	
	5節 世界の産業と人々の生活	
10	第1部 地図でとらえる現代世界	・地球規模で取り組むべき課題が、相互に関連しあっていることを理解できるようにし、持続可能な開発のための解決法を考えます。 ・環境問題の発生が、人間の活動によって引き起こされていることを理解できるようにします。 ・資源・エネルギーの生産地と消費地は地理的に離れていることを理解し、資源をめぐる対立が生じる要因を考えます。 ・世界の人口推移とその背景を理解できるようにし、発展途上国と先進国がそれぞれ抱える人口問題の要因と影響を考えます。 ・食料問題が生じる背景や食の安全に関する問題とその対策を説明できるようにします。 ・発展途上国と先進国がそれぞれ抱える都市・居住問題について理解できるようにします。 ・身近な地域の情報を得るためのさまざまな手段と注意点を理解できるようにします。
	第2章 結び付きを深める現代世界	
	1節 現代世界の国家と領域	
	2節 グローバル化する世界	
	第2部 国際理解と国際協力	
11	第2章 地球的課題と国際協力	
	1節 複雑に絡み合う地球的課題	
	2節 地球環境問題	
	3節 資源・エネルギー問題	
	4節 人口問題	
12	5節 食料問題	
	6節 都市・居住問題	
	第3部 持続可能な地域づくりと私たち	
	第2章 生活圏の調査と地域の展望	

